

進学・就学問題に直面する貧困世帯の子どもたちの状況

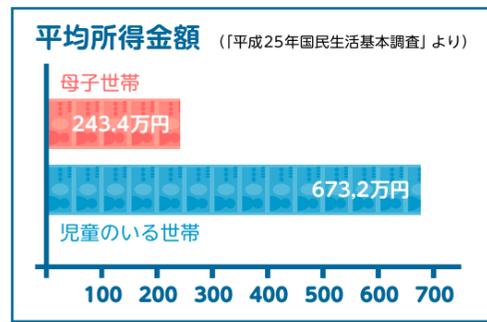
こちらのシートは、本テーマについてCO-BOフォーラムでお話を伺った4人の有識者のみなさまによるお話を参考に構成しています。
http://berd.benesse.jp/special/co-bo/co-bo_theme2.php

●NPO法人キッズドア 渡辺由美子さん ●あしなが育英会 小河光治さん
 ●NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 丸山裕代さん ●立教大学 湯澤直美先生

特に厳しい ひとり親世帯の貧困

ひとり親の貧困率は54.6%。母子世帯の数は増加傾向にある
 母子世帯、父子世帯の経済状況は厳しいことが、各種調査からわかっている

- 母子世帯の母自身の平均年間就労収入は181万円、父子世帯の父自身の平均年間就労収入は360万円
- 母子世帯の母の就労率は80.6%で、世界的に見ても高い
これは「働いているのに貧困」であることを意味する
- 就労中の母子世帯の母の雇用形態は、47.4%が不安定・低収入傾向の強いパート・アルバイト等（正社員雇用は39.4%）



「平成23年度全国母子世帯等調査」より

子どもの貧困は見えずらい

■外見からはわからない

着ている洋服や友達同士の会話からは、その子が貧困に直面しているかどうかはわからない



■「貧困」は隠すべきこと、という意識

多くの子どもは、自分の家が貧困だということを他者に言わない



■情報を集めづらい

個人情報保護の観点から、学校でも子どもの家庭に関する情報を得にくい



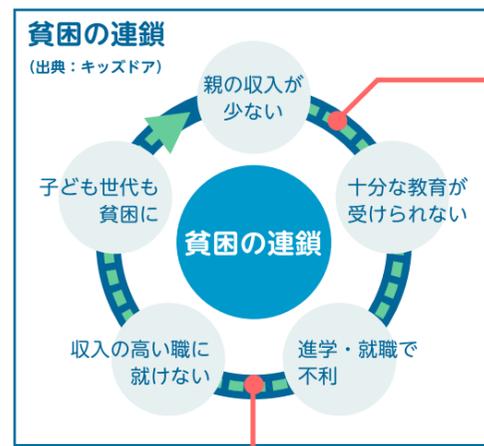
■一部の地域で進む「分断」

一部の地域では、貧困世帯や裕福世帯ばかりが同じ学区に集まり、所得で層が「分断」され、他の層の人に出会う機会がなくなっている



貧困が連鎖し、ふくらんでいく

貧困の連鎖とは、貧困が世代を超えて、親から子へと受け継がれてしまうこと



- 日本は教育費の私費負担割合が大きい
対GDPにおける教育機関への公財政支出額割合(OECD調べ)は、2011年の数字で3.6%。比較可能な加盟国の中で最下位
- 世帯収入と学力に相関関係が見られる
家庭所得と全国学力テスト(小6)の正答率の関係をみると、所得が高い家庭の子どもは正答率がより高いという傾向がある
- 親の不在が子どもの勉強時間確保を妨げる
親が就労に追われて不在がちのため生活リズムが乱れたり、子どもが家事に追われて勉強する時間がない

■**学歴偏重社会の日本。低学歴は低収入や不安定な職に結びつく傾向がある**
 生活保護開始時の世帯主の学歴は、中卒の割合が53.5%というデータも

貧困層の子どもたちに見出せる前向きな要素

- ボランティアの人たちや寄付をしてくれる人、同じような困難を克服してきた先輩と直接接することにより、他者への信頼感が高まり、前向きに自立の道を歩むことができるようになる
- 支援活動の中で自分のやりたいことや目標が見つかり、やがて「支援する側」へと成長していく子も



「子どもの貧困」は当事者だけの問題か、それともみんなで解決すべき「社会問題」か

- ある子が貧困から抜け出すことができれば、その子は社会へ貢献する側に回ることができる
- 貧困が「不利」にならない社会を作るためのコストは、当事者の「救済」ではなく未来の社会への「投資」

生活保護と納税から見る社会のコストメリット (出典:キッズドア)

